

令和5年度
有喜小学校 学力向上プラン

学校教育目標の具現化

徳育

体育・食育

確かな学力の定着

道徳教育 生徒指導 人権教育

体力づくり 健康教育 食育指導

授業改善

学び方の定着

- 自ら教材に働きかける意欲の向上
- 言語活動を充実した学習過程の意識化
- 基本的な学習規律の確立
- 図書館教育の充実（読書の充実）

- 単元全体の指導計画の見通し
- 学ぶ意味をもたせるめあて
- 思考を深める発問の工夫
- 書く目的や内容、方法を明確にした指導
- 次（学習・生活）に活かせるまとめ
- 違いを認め合い、他者を尊重する態度
- ICT機器の効果的な活用

家庭との連携

- 家庭との課題の共有・共通理解
- 早寝・早起き・朝ご飯の啓発
- 質と量を見極め、自主的な家庭学習の習慣化を図る（有喜小学びの習慣化、学年×10分+10分の時間確保）
- メディア活用（テレビ、スマホ、PC等の約束）
- 子どもの学びを認め、自己肯定感を高める連携

指導体制の工夫

- 特別支援教育の考え方に立った個人差に応じた指導
- 少人数指導の充実
- 学びタイム・チャレンジタイムの実施
- 補充学習の充実
- 「学びのひろば」による学習意欲の醸成
- 子供が成長する喜びを分かち合う職員室（課題把握と授業改善）

校内研修の充実

- 算数科における言語活動の充実と工夫
- 日常的な学び合う場の設定
- 全員授業による指導力の向上
- 掲示板等の教育環境の充実
- Chromebookの活用を含めたICT機器の活用

「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」（学習環境の整備・地域の教育力の活用等）

<本年度の取組内容>

① 児童の主体性を高める「導入」の工夫

- ・児童の「できるようになりたい」気持ちを大切にして、児童の思いから学習計画を立てたり、1単位時間のめあてを立てたりする。

② 自分なりの考えをもつ自力解決の指導

- ・考える時間・書く時間を確保する。
- ・教科書や既習内容から根拠となる考えを引き出す。
- ・途中までの考えや意見でもよいので、自分なりの考えをもたせる。

③ 効果的な算数的活動の工夫

- ・思考の手立てを工夫する。(具体物・ブロック操作、数直線、作図など)

④ ペア・グループ学習による、対話型協働学習能力の育成

- ・教師の意図や児童の必要感に応じて対話の時間を設定する。
- ・話型や聴型を、話合いの進め方を参考に、全員が活発に対話できるようにする。

⑤ 自分の考えを書き込むノート指導

- ・思考の流れがわかるノート(全校共通)
- ・自分の考えを書き込む(吹き出しなどを含む)
- ・友達の考えやそのポイントを書く。
- ・ノートを掲示するコーナーを設け、毎月掲示する。

⑥ 学びの振り返り

- ・発達段階に応じて観点を選択し、学んだことを整理する。
(例) ①この時間に学んだことやできるようになったこと
②この時間の学び方は自分に合っていたか(形態・態度など)
③次にやってみたいこと

⑦ 少人数指導の工夫(4・5年)

- ・算数科において個別指導を充実させることにより、学力の底上げを図る。

⑧ 学びタイム

<高学年> デジタルドリルの活用 (e ライブラリアドバンス)

<低学年> 国語 リーディングスキル向上問題

算数 基礎基本問題 ※状況に応じてデジタルドリルを活用する

・4回を1クールとして、算数の「数と計算」の問題に取り組む

1回目 基礎基本問題 2回目 標準問題

3回目 テスト 4回目 解き直し・ふり返し

⑨ 学びの広場の充実

・教科は問わず、児童の興味・関心の高い内容や、思考力が高まる内容を工夫して
掲示する。

低学年・・・低学年玄関前

高学年・・・給食室横

⑩ 家庭との連携

・学びの習慣化 ⇒ 家庭学習の手引きを配布し、意識を高める。

※懇談会等で定期的に話題に挙げる。

・学力向上とメディアについて、保護者に実態を知らせる機会を設ける。

・筆箱の約束を周知させる。

⑪ その他共通理解事項

・問題や見通しなどのプレートを全校で統一する。

・1分前着席⇒黙想 に取り組む。

・月に1度程度、担任が筆箱チェックを行い、違反カードを使って家庭連絡をする。

※参照 筆箱の約束